

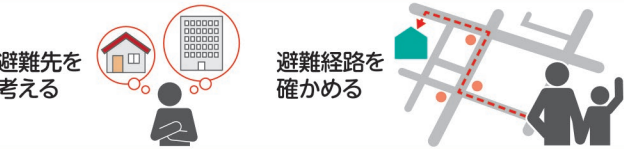
### 浸水想定区域(想定最大規模※)

この高潮ハザードマップは、高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。  
※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の高潮」による氾濫を前提として予測したものです。なお、実際の災害では想定されていない区域が浸水したり、想定とは異なる結果になる場合があり、注意が必要です。

このマップは以下の浸水想定区域図を示したものです  
**兵庫県大阪湾沿岸(尼崎市、西宮市、芦屋市沿岸)**  
高潮浸水想定区域図(想定最大規模)  
[作成主体]兵庫県

発生想定  
このマップの浸水想定条件  
台風の中心気圧  
910hPa  
想定最大規模台風  
500～4000年に一度  
浸水が想定されていない場所、色のついていない場所、注意が必要です。

尼崎市では災害が発生したときのために、次の避難場所を定めています。  
津波等一時避難場所とは津波・高潮・洪水等が発生したときに、津波警報や避難情報が発令されたときから解除されるまでの間、一時的に避難できる場所です。公共施設のほか、民間等の建物所有者にご協力をいただいで指定しています。  
指定避難場所とは災害により住まいを失った場合や、災害発生後に災害の危険がなくなるまで中長期に渡って避難生活をする場所です。  
福祉避難所とは災害時に支援が必要な要配慮者(災害時要援護者)に配慮した避難場所です。  
(災害時に必要に応じて開設する二次的避難所、基本的には最初から利用することはできません。)  
日頃から自分自身の避難しやすい避難場所を確認しておきましょう。



歩行の目安  
硬貨を使ってマップ上でおおよその距離と時間をはかってみましょう。  
マップ上でおおよその距離・時間をはかる  
10円玉1枚で約400m  
23.5mm  
10円玉1枚で約14分  
歩行困難者・乳幼児等 毎秒約0.5m  
約7分 毎秒約1.0m  
※歩行速度は、総務省消防庁「津波避難対策推進マニュアル検討報告書」を参考に算出しております。

- #### 凡例
- 津波等一時避難場所
  - 指定避難場所
  - 福祉避難所
  - 市役所
  - 地域振興センター
  - 警察署
  - 消防署
  - 救急告示医療機関
  - ヘリ臨着場
  - 水門
  - 水防倉庫
  - ポンプ場等
  - 下水処理場
  - 水位観測所
  - 防災行政無線
  - 地下街等(駐車場、商業施設)
  - 地下道・アンダーパス
- 想定される浸水深
- |              |
|--------------|
| 5.0m～10.0m未満 |
| 3.0m～5.0m未満  |
| 1.0m～3.0m未満  |
| 0.5m～1.0m未満  |
| 0.5m未満       |
- 想定される浸水深
- 浸水の深さ
- |         |            |
|---------|------------|
| 5m～10m  | 2階建より上まで浸水 |
| 3m～5m   | 2階軒下浸水     |
| 1m～3m   | 1階軒下浸水     |
| 0.5m～1m | 床上浸水       |
| ～0.5m未満 | 避難も危険      |
- 色のついていない場所も浸水する場合があります。注意して早めの避難を心がけましょう。

#### 高潮から命をまもる

尼崎市では高潮の啓発動画を作成しています。  
高潮からのちを守るために

この動画では高潮発生メカニズムや、実際に高潮が発生した場合、どのように避難するかを分かりやすく解説しています。

#### 高潮の発生のしくみ

高潮は、以下の3つの要因で発生します。

- ① 気圧低下による海面の上昇(吸い上げ)  
気圧が1hPa低下すると、約1cm海面が上昇します。
- ② 風で押し寄せる波(吹き寄せ)  
台風による強い風で海水が海岸に吹き寄せられて、海面が上昇します。  
押し寄せた波が、沖に戻れずに海岸付近にたまるようになり、海面が上昇します。
- ③ 満潮時間との重なり  
夏から秋にかけては、一年のうちで潮位が最も高い時期です。台風の接近時には満潮時間にも注意しましょう。

#### 潮位と浸水深は違います

潮位は、浸水深とは異なります。潮位は沖合での海面(標高)セロメートルからの高さで、浸水深は地面から浸水面の高さです。

このハザードマップでは想定される最大の浸水深を示しています。

#### あの日あときを忘れない「ジェーン台風」

昭和25年9月3日に襲来したジェーン台風では、最大瞬間風速44mを市域で記録し、高潮によりおおね国道2号以南が浸水し、小田地区では東海道線まで浸水がおよび、甚大な被害が発生しました。防潮堤の建設を始めた矢先の台風襲来で、現在の防潮堤は昭和31年に完成しました。

#### 尼崎市域における爪痕

|                  |
|------------------|
| 死者・行方不明者:28人     |
| 家屋被害:全壊・半壊7,967戸 |
| 床上浸水:1万8,679戸    |
| 床下浸水:6,951戸      |

「尼崎市事務報告書」昭和25年版より

尼崎市立歴史博物館  
あまがさきアーカイブズ所蔵  
広報課写真

#### 高潮に対して危険な地域

気象条件に加え、高潮による海面上昇は海底地形や海岸形状が影響します。尼崎市の地形は市域の1/3が海面(大阪湾朔望平均満潮位)より低い「海抜ゼロメートル地帯」となっています。また、市域の3方向を水域に囲まれており、洪水や高潮、津波の被害を受けやすい地形です。

#### 断面イメージ

計画潮位 T.P.+3.9m(海抜3.9m)  
平均満潮位 T.P.+0.8m(海抜0.8m)  
基準潮位 T.P.+0.0m(海抜0m)  
干潮位 T.P.-0.7m(海抜-0.7m)

※T.P.とは、地表面や海面の高さを表す基準水準面である東京湾平均海面のことです。わが国では、標高(海抜)の基準としてT.P.を用いています。

【発行、問い合わせ】  
尼崎市危機管理安全局 危機管理安全部 災害対策課  
〒660-8501 兵庫県尼崎市東七松町1丁目23番1号  
電話番号:06-6489-6165 FAX番号:06-6489-6166